

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471902484
法人名	有限会社ラブ
事業所名	ぐるーぶほーむ梅の郷
訪問調査日	2019年3月15日
評価確定日	2019年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902484	事業の開始年月日	平成16年12月1日	
		指定年月日	平成16年12月1日	
法人名	有限会社ラブ			
事業所名	ぐるーぷほーむ梅の郷			
所在地	(237-0072) 神奈川県横須賀市長浦町5-2-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果 市町村受理日	令和1年6月21日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成31年3月15日	評価機関 評価決定日	平成31年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、有限会社ラブの運営です。以前、寮として使われていた建物を改築し、定員8名のグループホームとして、平成16年に開設しました。立地はJR横須賀線「田浦駅」から国道16号線沿いに徒歩7分程、トンネルを抜けた先の住宅地の中にあり、裏手は横須賀線の線路が走っています。建物は木造建築の2階建てで、玄関を入った正面は広いリビングになっており、右手にはキッチンダイニングスペース、その奥が浴室になっています。居室は1階に3室、2階に5室あり、部屋の造りはそれぞれ異なっている、家庭的な趣のあるグループホームです。

●事業所の理念「利用者の思いを大切にし、家庭的な環境の中で生活を営むようにする」と、この理念を実践するための3つのケア方針を事業所の入り口に掲げています。利用者が毎日楽しく過ごせるように「その人らしく！」を大切にし、職員は積極的に利用者とのコミュニケーションを取ることで、意思の疎通を図り、その人らしさを引き出せるように注力しています。職員の勤続年数の長い職員が多く、理念を共有しながらケアに当たっています。管理者自身も現場に入ることが多く、日頃から利用者の様子や業務に関することについても意見交換を行うことで、迅速な対応が出来るように心がけています。

●地域との交流では、自治会に加入し、回覧板で情報を頂いています。以前に自治会の班長を務めたことや、代表が毎年祭りの手伝いにも出向いており、地域の方にも認知されています。利用者の外出は難しくなっていますが、夏には、町内の神輿が事業所の前まで来て頂けるので、間近で神輿を見たり、雰囲気を楽しんで頂きながら交流を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ぐるーぷほーむ梅の郷
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が笑顔でいられるよう職員の日々の穏やかな対応と笑顔で関わっていくことでより良いサービスを提供していく。	事業所の理念「利用者の思いを大切にし、家庭的な環境の中で生活を営むようにする」と、理念を実践するための3つのケア方針を事業所に掲示し、共有しながらケアに当たっています。職員は積極的に利用者とコミュニケーションをとりながら意思の疎通を図り、その人らしさを引き出せるような支援に努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入している。行事・祭礼への参加をしている。	自治会に加入し、回覧板を通じて地域の情報を頂いています。以前に自治会の班長を務めたことや、代表が毎年祭りの手伝いにも出向いており、地域の方にも認知されています。また、神輿も事業所の前まで来て頂いているので、利用者と一緒に間近で楽しんでいます。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流が限られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を活発に行う。評価への取り組み状況についての意見をサービス向上に活かせるよう努める。	運営推進会議は年6回を目標に開催しています。民生委員・自治会会長・地域包括支援センター職員・市指導監査課と、家族の参加で開催し、事業所の現状報告・活動報告・研修報告等を行っています。防災関係の話で、参加者からアドバイスをいただき、訓練に盛り込む等、頂いた意見をサービスの向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議以外にも機会を持ち交流を図る。	横須賀市の担当者とは、運営推進会議に出席頂いている他、議事録も提出し、事業所の現状を理解して頂いています。更に、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、年1回の訪問や、必要に応じて都度連絡を取り合っています。管理者がグループホーム連絡会の役員になっており、他事業所とも情報交換を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないので、しないケアの継続。	身体拘束ゼロのマニュアルを作成し、いつでも閲覧出来るよう、職員の目に付く場所に置いています。身体拘束の研修は、年2回高齢者虐待防止の研修と併せて行っています。外部の研修に参加した職員が得た情報は、ミーティング時に報告して共有しています。玄関の施錠に関しては、国道と線路が近いため、安全上行っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での情報交換やミーティング時の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員で学ぶ機会を持ち必要性を話し合い、支援できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の方にわかりやすく説明をし不十分な所はその都度納得や理解をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時の声かけや日常の様子を家族へ伝えている。話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	利用者とは日頃からコミュニケーションを心掛け、要望等があった場合には、ADL等も考慮しながら前向きに検討しています。家族は、年2回面会に訪れ、一緒に墓参りに行く方や、お孫さんを連れて面会に来る方もいるので、その際に意見や要望を伺っています。面会に来られない家族とは、何かあれば連絡を取っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き反映に努めている。	管理者は日頃から現場に入っており、職員とも常にコミュニケーションを取りながら、意見や提案を聞いています。内容によっては代表にも相談して検討したうえで、意見や提案を反映させています。月1回のミーティングで話し合いの場を設け、夜勤者は夜勤明けや夜勤前等に話をする等、全員から意見や提案を聞いています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持てるよう研修への参加の機会を設ける。向上心の把握に努める。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部の職員だけでなく職員の能力に合わせた研修を受ける機会を設ける。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームの協議会で役員会への参加をしているので交流の機会があり情報交換や研修にも参加している（管理者）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい機会をつくり傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話をしやすい声かけをし傾聴をする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めている事を話しやすい雰囲気をつくり対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理をしたり体を動かしたりしている。本人の得意分野で教えてもらいながら一緒にやっていく事の継続。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を理解しより良い関係になれるよう支援する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人との交流の継続の支援。（家族の協力もある）	娘さんと一緒に墓参りや、外食をしてくる方、近くの美容院へお連れし、終わると迎えに行く方もおり、馴染みの交流を継続出来るように支援しています。今後も馴染みの関係との要望があれば、支援を行っていくよう心がけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に話せる空間を作り、職員が間に入り一人ひとりの意志を尊重し声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする方への声掛けをし相談・支援に努める。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との面談を通し意思の確認を行っている。普段の会話の中からも要望等を聞き取り意思を汲みとっていく。	入居時のアセスメントで過去の生活歴や暮らし方の希望を把握し、意向に沿った支援を行えるように努めています。日頃から、積極的に利用者とのコミュニケーションを取ることで、意思の疎通を図り、今現在の思いや意向の把握に努め、実現出来るように支援しています。意思の疎通が困難な方については、表情等から思いや意向の汲み取りに努め、申し送りノートに記載して共有し、本人本位に検討しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方へのヒアリングや医療・関係機関と連携をとり情報を収集しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会議や職員間のコミュニケーションを密にとり現状の把握をし支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、ケアカンファレンス、モニタリングを継続して行っており、本人・家族・職員の意見を反映し作成している。（かかりつけ医に相談することもある）	入居時に作成した暫定的な介護計画で、3か月様子を見て、入居後に得られた情報を基に作り直し、現状に即した介護計画を作成しています。月1回のミーティングの中でケアカンファレンスを開催し、利用者全員分のアセスメントを行っています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録の記入を行い、職員全員で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の方の要望やその時々に応じた支援をしていく。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティアの方との協力で地域の活動への参加や交流を図っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の方と話し、かかりつけ医と受診の支援をしている。2週間に一度往診を受けている。緊急時に連絡を取り合える体制を設けている。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、事業所の提携医を説明したうえで、主治医を決めています。現在は全員が事業所の提携医を主治医とし、月2回の訪問診療を受診しています。歯科は月に1回の定期検診と、必要な方には週1回の往診があります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日常の情報や気づきを伝え、利用者が適切な受診を受けられるよう支援に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携はとれている。病院関係者との情報交換、相談が出来るよう努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部の家族との話し合いを行っている。方針の統一、共有をし状況に応じた話し合いを行っている。	契約時に、「重度化に関わる指針」を基に事業所の方針について説明し、緊急時対応の意思確認も行い、同意を頂いています。状態の変化が生じた際には、再度家族の意思を確認し、方針を決めたうえで支援しています。医師とは、往診時やクリニックへ行って頂き、直接話をしてもらうようにしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。全ての職員が応急手当や初期対応の仕方を身に付けるよう訓練を行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を活発に行う。	年6回、地震・火災想定で、利用者にも参加して頂きながら自主訓練を実施しています。各居室の入り口には、スモークシャットアウト（フード）を用意し、防災リュックとヘルメット・ラジオ・カセットコンロの他、3日分の食料の備蓄も確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしている。記録・個人情報の取り扱いの注意。人前での介助・声掛けに気をつけている。	接遇や倫理の研修を行い、人格の尊重に配慮しています。日頃のケアの中で、気が付いたことがあれば、管理者が職員に話しています。「その人らしく！」の方針を念頭に置いたケアの基に、人格を損なうことのない支援に努めています。個人情報は鍵のかかる場所に保管しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人への声掛けやコミュニケーションをとる事で思いや希望を表してくれる。一人ひとりに合わせた声掛けをしている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた過ごし方ややりたい事の支援、声掛けをしその日の気分やペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に添った支援をしている。行きつけの美容院に行っている。	/		/
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、料理方法など利用者に希望を聞き一緒に準備や下ごしらえ盛りつけなどしている。利用者と同じ献立で同じものを食べている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や栄養バランスを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをしたり一緒に行っている。（誘導、見守り、介助）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄パターンを知り、支援している。声掛け、見守りを行っている。	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。自立している方は見守りで対応し、声かけや介助が必要な方は、時間を見てトイレへ誘導し、トイレでの排泄が出来るように支援しています。夜間も時間を見て、声掛け誘導して、快眠につながるようにしています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などをして身体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を聞き順番や温度にも気をつけている。無理強いをせず本人の意向を大事にしている。	基本的には週2回、午後から入浴支援を行っています。利用者によっては、順番や温度等の好みもあるので、本人の意向を尊重しながら対応しています。リフト浴の設備はありますが、現在利用している方はいません。雰囲気を変えるために、入浴剤を使用することもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状況に応じ好きな時間に休息してもらったり、その時々状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に使用している薬の内容を職員へ記録や説明をし伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた役割（食事の準備・下ごしらえなど）や楽しみごと（レクリエーション）の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の方との外出の支援をしている。自治会で毎月開催される「ふれあいいきいきサロン」への参加が難しくなっている。	外出は難しくなっていますが、プランターで育てている花や国道の手前まで歩き、近隣の方と挨拶を交わすこともあります。夏には、町内の神輿が事業所の前まで来て頂けるので、間近で神輿を見たり、雰囲気を楽しんで頂くようにしています。個別で、家族と墓参りや外食を楽しんで来る方もいます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行く機会をつくり使えるよう支援したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の配慮をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が繋がっているので生活感を感じてもらえることが出来ている。（五感刺激）季節感を採り入れた飾りつけなどをしている。	居間と台所が繋がっているので、調理の音や香りなどの生活感を感じることが出来るリビングになっています。季節感を感じられる物や小物等が飾られ、温度や湿度にも配慮して快適に過ごせる空間作りを心がけています。掃除は昼と夜にモップ掛けを行い、埃やゴミ等が無いように留意しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のペースを大切に居場所をつくり自由に過ごしてもらえようゆったりとした時間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使い慣れた物や身の回りの物を自由に置いて使ってもらっている。	各居室は、それぞれ異なった間取りになっていますが、どの部屋も広くて明るい居室になっています。入居時には、本人と家族で相談しながら、タンスや仏壇、縫いぐるみ、家族の写真等、使い慣れた物や、好みの物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせる空間になるよう配置して頂いています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし行動を制限せずに支援している。階段・廊下・浴室に手すりを設置している。（トイレ・脱衣所）		

目 標 達 成 計 画

事業所

ぐるーぷほーむ梅の郷

作成日

平成31年3月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	出来る事が減ってきている	本人の出来る事を継続していく	一人ひとりに合わせた支援をする 職員も一緒に行う	
2	35	災害時の対応の把握	災害時に対応ができるように避難方法を全職員が身につける	職員一人ひとりに避難訓練の実施を行う	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。